

日本のポンペイ

～ 渋川市の遺跡を探る ～

No.10

「かないうま金井馬」の発見ーかないしもんでん金井下新田遺跡と温泉

金井下新田遺跡は「甲よかいを着た古墳人」発見の熱気に包まれた金井東裏遺跡の南に位置しています。合わせて金井遺跡群とも呼ばれています。

さて、金井下新田遺跡ではどんな発見があったのでしょうか。

1520年前に噴火した榛名山の火山灰を取り除いていくと、骨のようなものが出土しました。「ひよつとして新たな古墳人か」と緊張しながら掘り進めると、馬が横倒しで埋まっていることが分かったのです。さらに隣に人骨も発見され、馬とともに避難中に火碎流に巻き込まれたようです。これまでもヒヅメの跡はみつかっていましたが、馬そのものの発見は初のことになります。

榛名山周辺に馬の放牧地があったことは遺跡の調査で分かっていました。ヤマト王権を支えた最先端産業の馬生産。金井が政治的にも経済的にも重要地域だったことが分かります。

飼育には放牧地とエサが必要です。さらに大量の汗をかくため塩分の補給は不可欠。そこで、クローズアップされるのが伊香保温泉。国内には塩分の高い温泉を煮詰めた「やまじお山塩」生産の歴史をもつ地域があります。伊香保温泉にその歴史はないようですが、馬の飼育には煮詰めなくても、そのままエサに混ぜても目的は果たせるでしょう。金井遺跡群は、温泉とともに榛名山のたまものといえる歴史遺産になるでしょう。

(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 事業局長 原 雅信)



発見された「金井馬」